

# どうなる？ どうする！？ 教育DX

2024年12月8日（日）

## そのEdTech、マズくない？ “炎上”を未然に防ぐには

岸本充生（KISHIMOTO, Atsuo）

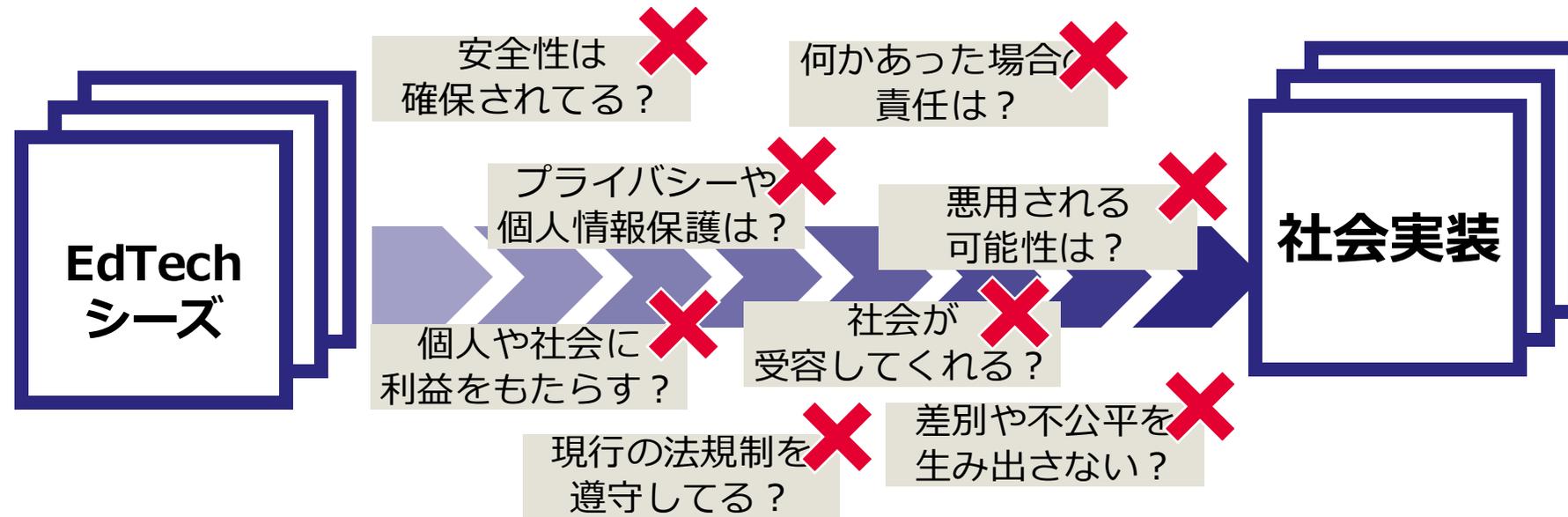
大阪大学 D3センター（9月までデータビリティフロンティア機構（IDS））



大阪大学 社会技術共創研究センター  
Research Center on Ethical, Legal and Social Issues

（通称、ELSIセンター）

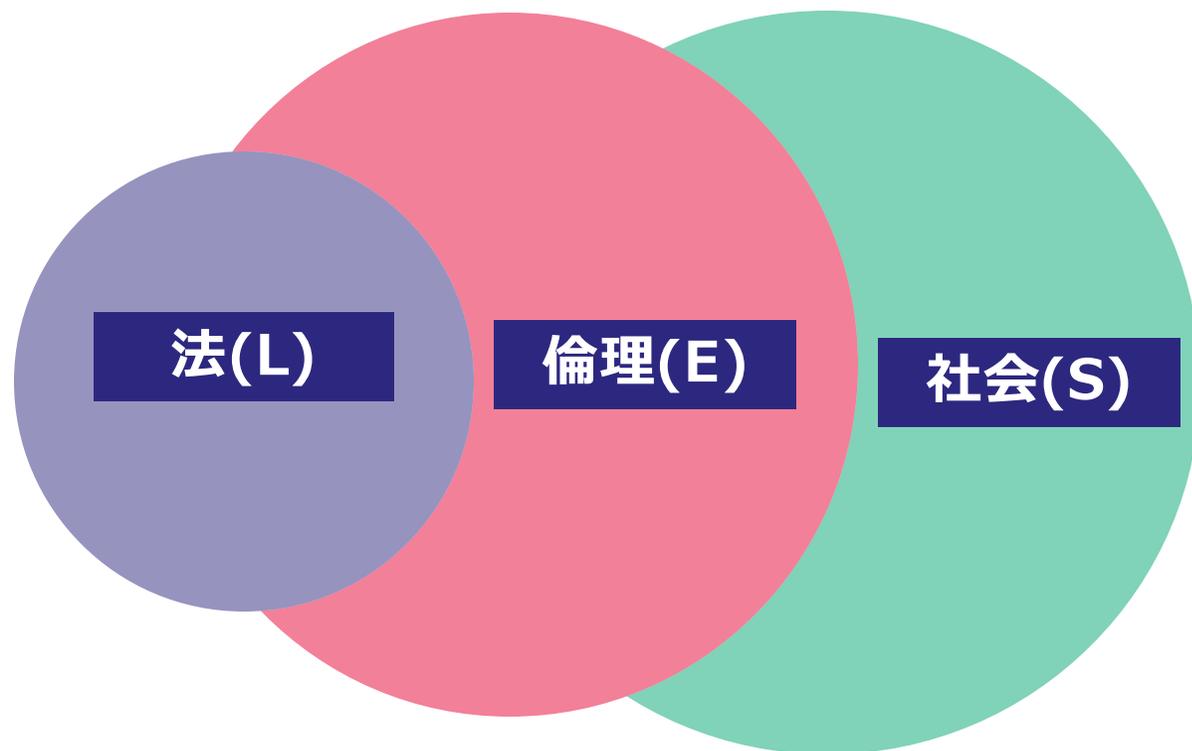
パーソナルデータの利活用ではしばしば「炎上」事例が起きている。  
 原因は…技術と社会の間のギャップを埋めるノウハウが欠如していること



## 倫理的・法的・社会的課題 (ELSI: Ethical, Legal and Social Issues)

「ギャップを埋めるノウハウ」のことを「**社会技術**」と呼ぶ。

# 私たちはE(倫理)・L(法)・S(社会)の規範のもとで生きている



おおざっぱな区分

## 法(L)

倫理(E)からの不断の見直し。

## 倫理(E)

社会において人々が依拠すべき規範。安定的。法(L)の基盤。

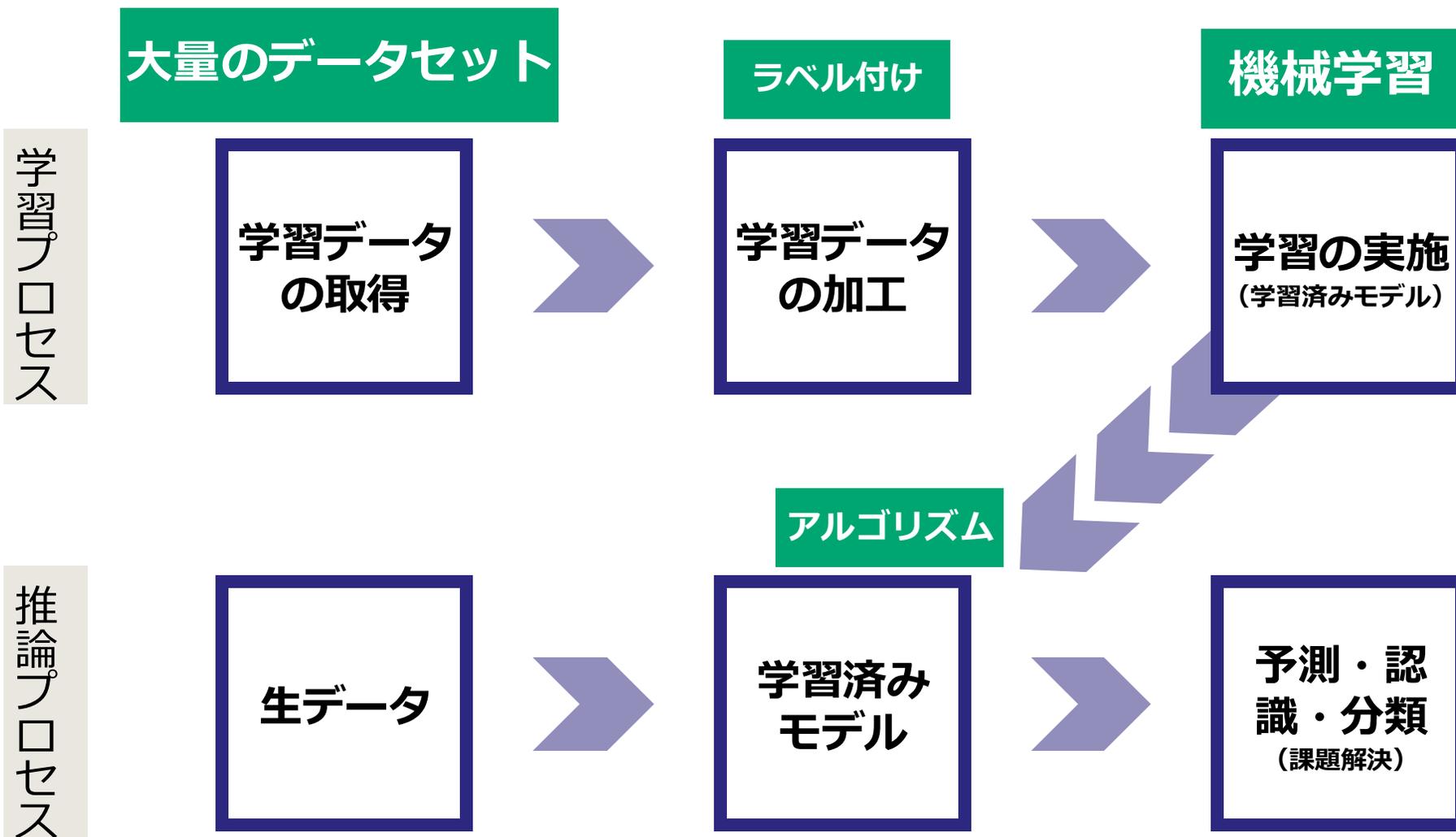
## 社会(S)

変化しやすい。不安定。

近年、法的 (L) にはOKでも、倫理的 (E) 社会的 (S) にマズい事例が急増中

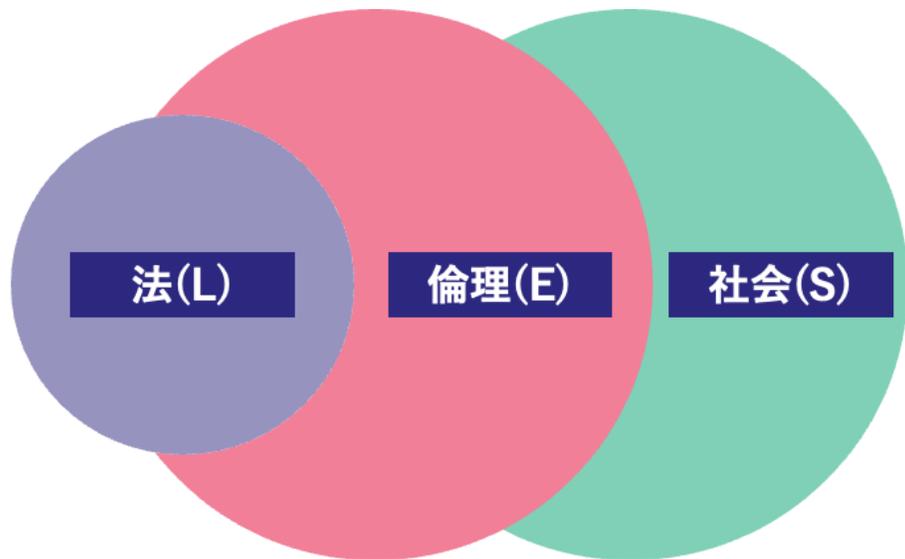
# パーソナルデータとAIを使うといろんなことができる。

ように見える



技術的に**できる**こと  $\neq$  社会的にやっ**てよい**こと  
(できるように見えること) (データ提供者や社会にとってリスクが十分に小さく、かつ、)

## どうやって線引きする？



**法(L)**

倫理(E)からの不断の見直し。

裁判所 (判例)  
企業法務部

**倫理(E)**

社会において人々が  
規範。安定的。法

世論の動向  
企業広報部

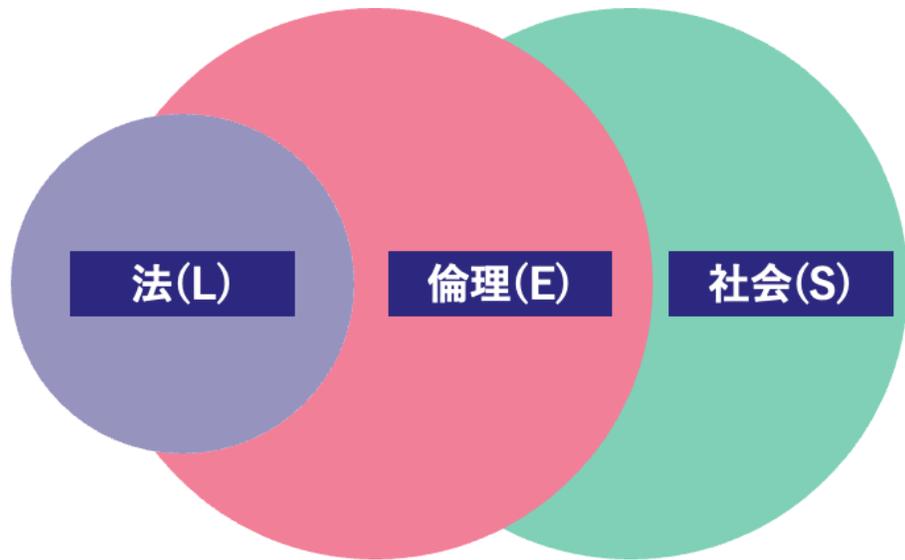
**社会(S)**

変化しやすい。不安定。

これまでは、法 (L) や社会 (S) を参照することでやってきた。

技術的に**できる**こと  $\neq$  社会的にやっ**てよい**こと  
 (できるように見えること) (データ提供者や社会にとってリスクが十分に小さく、かつ、**有益な**こと)

どうやって線引きする？



**法(L)** 倫理(E)からの不断の見直し。

**倫理(E)** 社会において人々が依拠すべき規範。安定的。法(L)の基盤。

**社会(S)** 変化しやすい。不安定。

技術革新の速度が増し、法規制は後追いになる。判例も増えない。

SNSに見られるように不安定で頼りにならない

不確かな時代には、羅針盤となるもの = 倫理 (E) が必要。  
 実際、国際機関やたくさんの企業がAI倫理原則/指針を策定している。

自治体・教育委員会にも

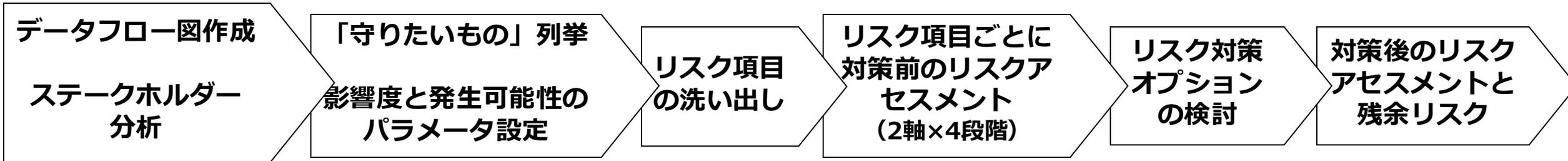
そのために EdTechガバナンスが必要

誰がいつどうやって何を決めるのか

- ・ 倫理原則/指針を作成、具体化した「チェックリスト」で運用
- ・ 大学の研究倫理審査のような審議プロセスを導入
- ・ リスクが高そうな案件にはリスク洗い出しワークショップ
- ・ 関連メンバーにELSI（倫理的・法的・社会的課題）研修
- ・ リスクアセスメントを実施して、妥当性を社会に対して提示

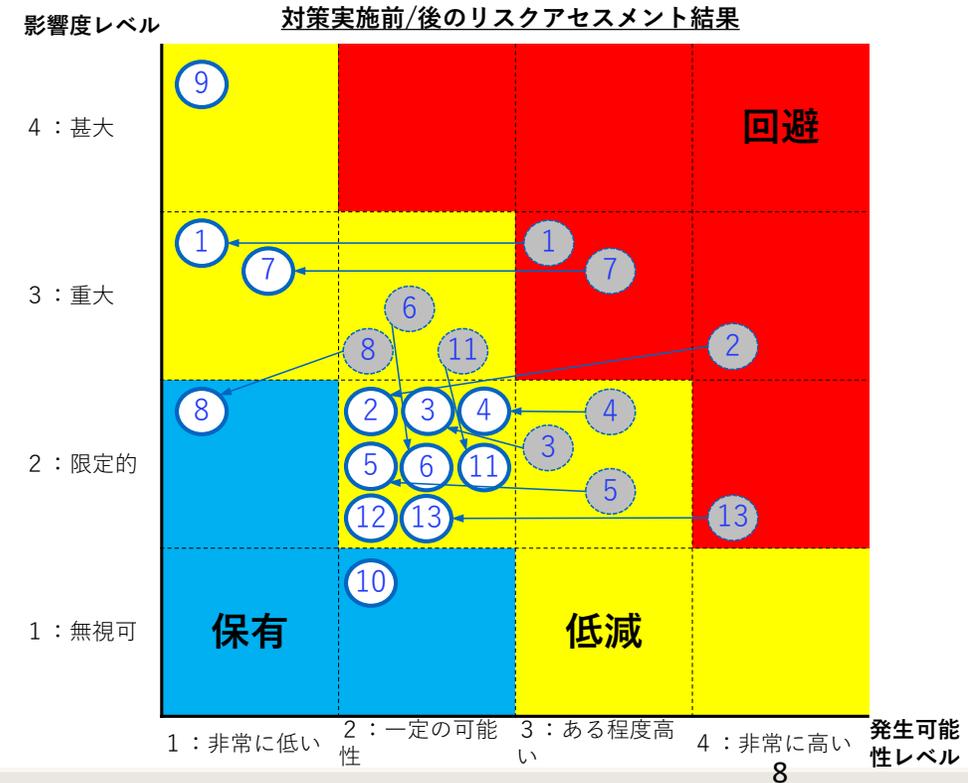
# 事例：大阪大学顔認証入場システムのリスクアセスメント

大学でも「研究」以外は研究倫理審査の対象外。



“デジタルトランスフォーメーション (DX)”を推進中。2024年6月から学内27か所で試行開始。

1月から3月ころまでリスクアセスメントを実施。リスクを洗い出し、13項目に集約。レポート作成、オンライン学内説明会で紹介。



- 依って立つべきは倫理
- 倫理といってもゼロイチではない。
- 法的判断と異なり、正解がない場合が多い
- その正当性はプロセスで担保。
- 線引きのためには「リスク」概念が有用。



ご清聴ありがとうございました！



大阪大学 社会技術共創研究センター  
Research Center on Ethical, Legal and Social Issues

2024年6月5日

ELSI NOTE No.43

## 大阪大学における 全学DX推進施策の リスクアセスメント： 顔認証入場システムのケース

Authors

岸本 亮生	大阪大学 社会技術共創研究センター センター長 (2024年6月現在)
田中 孝寛	大阪大学 社会技術共創研究センター 特任研究員 (2024年6月現在)
水町 衣里	大阪大学 社会技術共創研究センター 准教授 (2024年6月現在)
鈴木 隆一郎	大阪大学 社会技術共創研究センター 特任助教 (2024年6月現在)
長門 裕介	大阪大学 社会技術共創研究センター 特任助教 (2024年6月現在)
カテライ アメリカ	大阪大学 社会技術共創研究センター 特任助教 (2024年6月現在)
奥野 祐介	大阪大学 COデザインセンター 特任助教 (2024年6月現在)
井出 和希	大阪大学 情報連携教育研究拠点 特任准教授 (2024年6月現在)

※筆者の一人である田中孝寛は、日本電気株式会社 (NEC) から社会技術共創研究センター (ELSIセンター) に特任研究員として在籍出向している。本研究では ELSIセンターの立場からリスクアセスメントに参画した。また、NEC内においても大阪大学に顔認証技術を提供している部署とは業務の関係は無い。

📍大阪大学

Osaka University  
Research Center on  
Ethical, Legal and  
Social Issues

<https://doi.org/10.18910/95837>